

宮城県公文書館年報

第4号

平成16年度



宮城県公文書館

Miyagi Prefectural Archives

目次

公文書館の概要

1 設置目的	1
2 業務内容	1
3 沿革	1
4 組織	2
5 予算	2
6 施設・設備	2

平成16年度事業の概要

1 収蔵・収集状況	4
2 調査	4
3 整理	4
4 保存対策	5
5 利用状況	5
6 広報普及	6

平成17年度事業計画	8
------------	---

【表紙写真】

躑躅岡釈迦堂碑（つつじがおかしやかどうひ）

宮城県公文書館の構内には、「躑躅岡釈迦堂碑」という石碑があります。この碑は、仙台藩第四代藩主の伊達綱村公が、元禄8年（1695年）に自ら碑文を起草し建立したもので、その碑文には「母の慈仁の志」や「子の誠孝の意」といった親子としてのあるべき道が説かれてあります。

綱村公は、幼名を亀千代君といい僅か数え2歳のときに伊達62万石を襲封し、その後、小説「縦の木は残った」（山本周五郎作）や歌舞伎「伽羅先代萩」の題材となったことで知られる「伊達騒動」（寛文事件）に遭遇することになりますが、その事件に際し、危難から自分を救ってくれた生母「三沢初子」に対しては、終生孝養を尽くしたといわれております。

母初子は、仏道に深く帰依し小さな釈迦像をいつも身に付けていたことなどから、綱村公は、母が没した後10年目にあたる元禄8年に、形見となった釈迦像を祀った「躑躅岡釈迦堂」を建立し、また、母の徳を後世に伝えようとしてこの石碑を建立したといわれております。

公文書館の概要

1 設置目的

宮城県公文書館は、「宮城県公文書館条例」（平成12年宮城県条例第132号）に基づいて設置された施設であり、歴史資料として重要な公文書等を継続的に収集・保存し、県民共有の文化遺産として後世に伝えると共に、開かれた県政の一環として収蔵資料を広く公開することを目的とする。

2 業務内容

公文書館の主な業務は次のとおりである。（宮城県公文書館条例施行規則第2条）

- (1) 歴史的価値を有する公文書その他の記録（以下「公文書等」という。）の保存に関する事。
- (2) 公文書等の閲覧その他の利用に関する事。
- (3) 公文書等の調査研究に関する事。
- (4) 前3号に掲げるもののほか、公文書館の設置の目的を達成するために必要な事業。

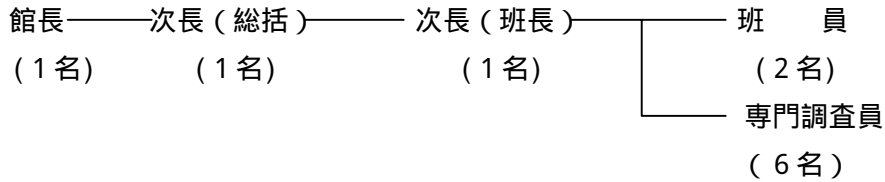
3 沿革

昭和63年6月	公文書館法施行
平成元年度～	保存期間満了文書の中から歴史的・文化的価値の高い公文書の選別・収集・保存を開始
平成元年11月～2年3月	宮城県公文書館構想庁内ワーキンググループ設置
2年10月～3年3月	宮城県公文書館（仮称）建設検討委員会及び建設検討ワーキンググループ設置
3年7月～4年3月	宮城県公文書館（仮称）建設懇話会を設置 （有識者7名）
4年3月	宮城県公文書館（仮称）建設懇話会から知事へ公文書館建設について提言
4年10月～5年3月	宮城県総合情報センター・公文書館（仮称）建設基本構想を策定
5年4月	他施設（国際交流プラザ）との併設を検討
9年7月	新図書館建設による旧図書館利活用庁内ワーキンググループ設置
11年1月	公文書館建設基本構想（平成5年3月）を断念し、旧図書館の活用を決定
13年4月1日	宮城県公文書館条例・同条例施行規則施行
13年4月21日	宮城県公文書館開館
14年6月	第14回都道府県・政令指定都市等公文書館長会議 （国立公文書館主催）開催

15年11月

第29回全国歴史資料保存利用機関連絡協議会全国大会
(同協議会・宮城県主催)開催

4 組織(平成17年3月31日現在)



5 予算(平成17年度当初)

運営経費	30,383千円
広報普及活動費	419千円
県史編さん事業費	54千円
調査研究事業費	536千円
合計	31,392千円

6 施設・設備

(1) 施設

イ 名称	宮城県公文書館
ロ 所在地	仙台市宮城野区榴ヶ岡5番地
ハ 施設の形態	みやぎNPOプラザ・生涯学習セミナールームとの複合施設
ニ 敷地面積	4,942.80㎡
ホ 構造	本館鉄筋コンクリート造り地下1階地上3階建て 書庫棟〃地上3階建て(5層式)
ヘ 建築年月日	本館昭和42年11月30日建築 書庫棟昭和58年7月20日建築
ト 建築面積	本館 1,153.39㎡ 書庫棟 246.35㎡
チ 延べ床面積	5,221.80㎡(本館4,040.70㎡書庫棟1,181.10㎡)
リ 施設別面積	公文書館 2,390.24㎡ みやぎNPOプラザ 1,261.56㎡ 生涯学習セミナールーム 242.25㎡ 共用スペース 1,327.75㎡

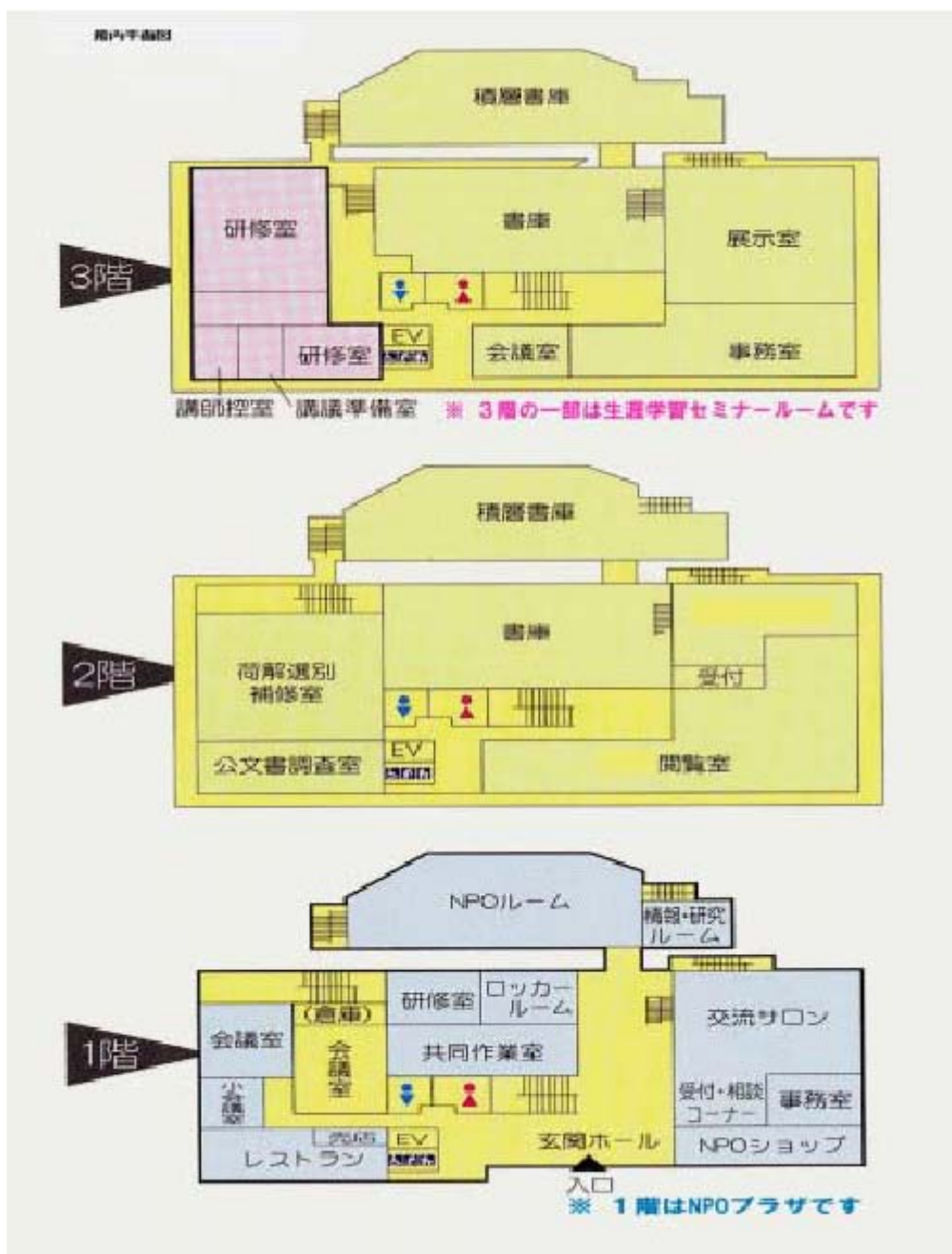
又 公文書館専用部分内訳

2 階		3 階		積層書庫	
室名	面積	室名	面積	室名	面積
閲覧室	378.45㎡	事務室	146.40㎡	2 層	229.09㎡
公文書調査室	75.60㎡	展示室	194.25㎡	3 層	234.95㎡
荷解選別補修室	175.62㎡	会議室	37.80㎡	4 層	229.09㎡

書庫	232.46 m ²	書庫	227.44 m ²	5 層	229.09 m ²
計	862.13 m ²	計	605.89 m ²	計	922.22 m ²

(2) 設備

- ・昇降機設備 2台
- ・閲覧用テーブル 16卓(幅120×奥行き75×高さ70)
- ・展示ケース(固定式) 3面
- ・“(移動式) 5台(幅200×奥行き94×高さ80)
- ・マイクロフィルムリーダー・プリンタ 1台
- ・デジタルブックコピー 1台



平成16年度事業の概要

1 収蔵・収集状況

本庁・地方機関において保存期間の満了した文書の中から，歴史的・文化的価値があると判断されるものを選別し収集した。

(H17.3.31現在)

区 分		平成15年度末 所蔵冊数 (a)	年号・年度 区分訂正 (b)	平成16年度 引継収集冊数 (c)	平成16年度末 収蔵冊数 (a+b+c)	備 考
公 文 書	明治期公文書	3,715	0	38	3,753	
	大正期公文書	1,564	0	146	1,710	
	昭和期公文書	19,341	0	1,939	21,280	
	平成期公文書	2,054	0	408	2,462	
	計	26,674	0	2,531	29,205	
絵 図 面		1,465	0	0	1,465	
行政資料等		2,957	1,010	277	4,244	
合 計		31,096	1,010	2,808	34,914	

(閲覧対象公文書)

30年以上経過文書 (昭和48年度まで)	明 治 期	大 正 期	昭 和 期	合 計
	冊	冊	冊	冊
	3,753	1,710	16,907	22,370

2 調査

収蔵資料のうち，特に閲覧要望の多い戦前の文書について，他の文書に優先して資料内容や，非開示情報の有無，破損・汚損状況等を把握するため内容調査を行った。

また，公文書館史料の利用制限基準を施行したことに伴い，既に内容調査を終了していた資料について，公開・非公開の可否及び利用制限期間の見直しを行った。(平成17年度も継続して実施。)

区 分	平成15年度末 調査済数	平成16年度中 調査数	平成16年度末 調査済数	備考
内容調査冊数	10,302	0	10,302	昭和28年まで
内容見直し冊数	1,770	8,532	10,302	昭和28年まで

3 整理

文書完結後30年以上経過したすべての所蔵資料名と，内容調査が終了した資料の調査結

果について登録を行った。

4 保存対策

(1) マイクロフィルム化・複製化状況(H 1 7 . 3 . 3 1 現在)

区 分		平成 15 年度末 収蔵数 a	平成 16 年度 作成数 b	平成 16 年度末 収蔵数 a+b	備 考
マ イ ク ロ フ ィ ル ム 化	公 文 書	70 巻	269 巻	339 巻	
	行政資料等	151 巻	0 巻	151 巻	
	計	221 巻	269 巻	490 巻	
	絵 図 面 等	2,423 ㊦	0 ㊦	2,423 ㊦	1,465 枚分
複 製	絵 図 面	310 枚	38 枚	348 枚	

(2) 書庫のくん蒸

当館の書庫は毒性の強い「臭化メチル」等は使用できない構造となっているため、毒性が弱いとされる薬剤を使用しくん蒸を行った。

薫蒸期間：平成 16 年 11 月 22 日～24 日

使用薬剤：ミラクン S (ピレスロイド系フェノトリン)

5 利用状況

完結後 30 年経過した文書から個人情報等に配慮しながら広く公開し、閲覧や複写サービスを行った。

(1) 来館による利用状況

項 目 月	閲覧室利用者数 a	資料閲覧利 用冊数	複 写 件 数	展示室入場者 数 b	入 館 者 数 合 計 a+b
4 月	77	198	17	107	184
5 月	80	264	26	76	156
6 月	84	284	29	109	193
7 月	81	228	21	115	196
8 月	63	170	16	47	110
9 月	71	182	25	57	128
10 月	70	211	22	111	181
11 月	76	245	25	308	384
12 月	86	98	17	177	263
1 月	59	120	15	51	110
2 月	67	289	27	74	141

3月	70	257	23	110	177
合計	884	2,546	263	1,342	2,223
1日あたりの平均 (稼働日数304日)	2.96	8.54	0.88	4.50	7.45

(2) その他の利用状況

館外貸出許可	出版物等 掲載許可	レファレンス件数			ホームページ アクセス件数
		メール	窓口等	計	
7	15	41	2	43	12,674



検索用パソコン



閲覧室

6 広報普及

県民に当館の存在を広く知ってもらうとともに、公文書等の歴史資料を保存し後世に伝えていくことの重要性について、県民の理解を得るため、企画展・常設展の開催や、市町村公文書担当職員を対象とした研修会の開催するとともに、「公文書館だより」や「年報」をホームページ上で発行し、公文書館の存在を広くPRした。

(1) 展示

区分	テーマ	場所	期間	入館者数
常設展	明治の宮城あれこれ	公文書館	平成16年4月1日 ～8月5日	420人
常設展	明治期の公文書と村絵図	公文書館	平成16年8月14日 ～10月14日	114人
企画展	公文書は語る「宮城の災害」 ～先人はいかに災害を乗り越えてきたか～	公文書館	平成16年10月23日 ～平成17年2月24日	684人
特別展	写真で見る明治期の建物	公文書館	平成17年2月26日 ～3月31日	124人

【企画展概要】

「公文書は語る宮城の災害」

明治初期から、昭和40年代までの大規模災害に焦点をあてて、それらの被災状況や、災害復旧及び支援の模様を、公文書や写真などを展示し、紹介した。



(2) 公文書管理保存研修会

県内市町村の文書管理担当職員を対象に、公文書の利用・保存に関する研修会を開催。

開催日 平成16年12月10日

開催場所 公文書館(生涯学習セミナールーム)大研修室

参加人員 28名(25市町村)

「市町村合併に伴う公文書保存のためのガイドラインについて」というテーマで、新潟県立文書館主任文書研究員の中川浩宣氏による講演が行われた。

(3) 広報誌の発行

次のとおり、ホームページ上で公開した。

「宮城県公文書館だより」

第5号平成16年6月15日発行

第6号平成16年11月18日発行
「宮城県公文書館年報」
第3号(平成15年度) 平成16年7月9日発行

平成17年度事業計画

1 収蔵・収集

本庁・地方機関で保存期間満了した文書から、歴史的文化的価値ある文書を評価選別し収集する

2 調査

レファレンス業務や閲覧申請等に迅速な対応ができるよう、所蔵資料の内容調査を進める。

3 整理

現在の検索システムは職員の操作により検索を行っているが、来館者が自由に検索できるように改善を図る。

4 保存対策

- (1) 絵図面のカラー複製化
- (2) 公文書のマイクロフィルム化
- (3) 書庫の薰蒸

5 広報普及

(1) 常設展・企画展開催

特別展「写真で見る明治期の建物」 鞆 17年4月1日(金)～6月5日(日)

常設展「明治期の公文書と絵図 Part2」 鞆 17年9月3日(土)～11月20日(日)

企画展「みやぎの市町村合併」 鞆 17年11月26日(土)～鞆 18年1月29日(日)

(2) 開館5周年記念特別展開催

特別展「旧仙台藩士の北海道移住」 鞆 17年6月10日(金)～8月28日(日)

(3) 移動展

宮城県公文書館所蔵資料展 - 公文書から見た100年前の宮城 -

宮城県庁 18階 広報展示室 鞆 17年9月20日(火)～10月28日(金)

(4) 市町村担当職員研修

6 刊行物発行

- (1) 公文書館だより(ホームページ上)
- (2) 公文書館年報(ホームページ上)